



©撮影：H.Shima

狭山の元気 発見

いきいき狭山人



三輪 颯太さん

プロフィール

西武学園文理高等学校3年生。令和2年10月23日から25日まで行われた「全国高等学校陸上競技大会2020・U20全国陸上競技大会」の男子100メートルで10.48秒、200メートルで20.88秒の記録で優勝し、2冠を達成。



全国高等学校陸上競技大会
2冠のメダル

中学時代は大きな成績を残すことがないまま、卒業を迎えま

訳ではないようです。

今回ご紹介するのは、西武学園文理高等学校に通う、三輪颯太さんです。全国大会で2冠達成という、華々しい結果だけを聞くと、小さい頃からトップ選手として活躍し続けてきたのだろうと思うかもしれません。しかし、三輪さんの陸上人生はそうではありませんでした。陸上を始めたきっかけは、中学校入学時の部活動の勧誘でした。他の中学生の入部機と、な

く新型コロナウイルス感染症が流行。大会どころか、練習も満足に行えない状況に。「この期間中の過ごし方が一番、他の選手との差を付けられると思いました。プロの選手のトレーニング動画を見て自分流にアレンジして実践するなど、この時間をどう過ごすかを考えながら過ごす。

しかし、この大会から間もなく新型コロナウイルス感染症が流行。大会どころか、練習も満足に行えない状況に。「この期間中の過ごし方が一番、他の選手との差を付けられると思いました。プロの選手のトレーニング動画を見て自分流にアレンジして実践するなど、この時間をどう過ごすかを考えながら過ごす。

す。競技との向き合い方が変わったのは、高校に入ってから。「1学年上に、インターハイで6位に入賞するほどの先輩がいました。その人に憧れ、練習方法や大会中の身体のケアなどが変わりました」と三輪さん。この効果は早速、結果となって表れます。高校1年生の秋の新人戦の100メートルで初めて10秒台を記録。県で5位に入賞しました。翌年には4×100メートルリレーでインターハイに出場し、準決勝まで進出。そして、三輪さんが「一番自信につなげた」と語る大会が、高校2年生の新人戦、県大会です。当時の自己ベスト10.58秒で優勝。関東大会でも100メートル、200メートル共に優勝し、2冠を達成しました。憧れの先輩の記録を初めて上回ったのも、このレースでした。

「今後の目標は、大学の舞台でも日本一になること。そして、日の丸を付けて走れる選手になりたいです。三輪さんの話を聞いてみると、この2冠の偉業さえあくまで通過点に過ぎず、これからまだまだ成長を遂げていくのではないかと感じました。

「今後の目標は、大学の舞台でも日本一になること。そして、日の丸を付けて走れる選手になりたいです。三輪さんの話を聞いてみると、この2冠の偉業さえあくまで通過点に過ぎず、これからまだまだ成長を遂げていくのではないかと感じました。

しました。精神的にも成長した期間になったと感じます。そして迎えた昨年10月の全国高等学校陸上競技大会。率直に優勝した秘訣を聞くと、「直前に出場した日本選手権でスタートが2回もやり直しとなり、他の選手はピリピリしていたのですが、なぜか落ち着いている自分がいて。その時、ベストの走りをする突破しました。この経験が自信となり、今回の優勝につながりました」と、笑顔の三輪さん。



Honda硬式野球部

第91回都市対抗野球大会

優勝!



令和2年12月3日(木)、全国の社会人野球チームが地域の代表としてアマチュア野球日本一の座を争う都市対抗野球大会で、見事優勝を飾った狭山市代表・Honda硬式野球部。11年ぶり3度目の優勝の立役者の中から、主将の福島由登投手と橋戸賞(大会MVP)を獲得した井上彰吾選手に話を伺いました。 問合せ スポーツ振興課へ内線5712

井上 ドームは屋外球場よりも雑音が少なく、いつも増して

「恒例の「応援合戦」がない中での試合

井上 高校・大学の先輩である現・広島カープの長野選手に憧れ、「自分も都市対抗で優勝をしたい」という思いから、追うようにホンダへの入社を決め、長野選手の背番号「10」も引き継がせてもらいました。数年は1、2回戦負けが続き、自信をなくしていた時期もありますが、ようやく念願の優勝ができて、本当に感慨深いです。

「優勝した今の心境 福島 素直に、「うれしい」の一言に尽きます。入社8年目になる同期の私たち2人は、この都市対抗野球です」と苦しい思いをしてきました。2人が一緒に試合に出て、優勝できたことを本当にうれしく思います。



同期の井上選手(左)と福島投手



優勝に歓喜する一塁側スタンド

緊張感のある雰囲気でした。ただ、いつも聞いている仲間の声がよく聞こえるので、落ち着いてプレーすることができました。一決勝戦、試合を決める最終回のマウンドに立つ時の心境 福島 社会人野球の中で最も緊張したマウンドでした。点差は少し余裕があったものの、普段はあまり思わない「打たれたらどうしよう」という考えがよぎりました。ただ、それよりも勝ちたい、優勝したいという思いが勝っていたのだと思います。

「MVPを獲得した要因 井上 野球は通常冬に身体づくりをして、春に試合を始めます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は暖かくなつてから技術を磨く時間ができました。この時期に打撃フォームを大きく変えたのですが、これがハマりました。自分の中で

福島投手と井上選手の直筆サインボールを抽選で合計12名にプレゼント!

選手への応援メッセージや大会の感想を添えて、ご応募ください!

※当選発表は発送をもって代えさせていただきます

対象 市内在住・在学の18歳以下の方
応募締切 1月31日(日)

問合せ 広報課へ内線7163



応募はこちら

手応えがあり、チームメイトもそれを感じていたと思います。その好調を維持したまま本戦に入る事ができたのが、結果につながりました。 今後の目標 福島 11年前にも優勝をしましたが、しばらく優勝からは遠のいていました。この優勝におごることなく、連覇を目指します。井上 チームの中でも経験年数は上の方になってきました。今回の経験を生かし、これから入ってくる選手や、これから試合に出る選手の指導もしながら、「常勝ホンダ」をつくり上げていきたいです。